

平成 30 年度 第 1 回 蕨市健康づくり推進会議 議事録

日 時 平成 30 年 6 月 28 日 (木)
午後 1 時 30 分～ 3 時
場 所 蕨市保健センター
2 階 健康教育室

<出席者>

齊藤 富代	埼玉県南部保健所
○金子 健二	蕨戸田市医師会 (副会長)
羽根田 高洋	蕨戸田歯科医師会
岡村 増美	蕨市スポーツ推進委員協議会
澁谷 佐知子	蕨市民生委員・児童委員協議会連合会
寺内 幸恵	蕨市地域包括支援センター
植田 富美子	国民健康保険運営協議会
◎吉岡 幸子	帝京科学大学医療科学部看護学科 (会長)
伊藤 祐介	スポーツクラブ ルネサンス蕨
藤川 昌弘	公募市民
加山 千恵子	公募市民

会議次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 平成 29 年度事業報告について
 - (2) 平成 30 年度事業計画について
 - (3) 蕨市自殺対策計画について
 - (4) その他
- 3 閉会

1 開会

2 議題

(1) 平成 29 年度事業報告について

- 委 員：資料 1 の 3 ページのアルコールについて、市民等 63 人が参加だが、その中で蕨市には断酒会以外の方はどれくらいいますか。
- 事務局：断酒会の関係者の方が 7 割、一般の方が 3 割です。
- 委 員：有効に行われたと思います。断酒会の方は何か月かに 1 回集まっているんなことをお互いに話したり、共有はしていると思いますが、一般市民の方も 3 割でも関心を持ってくれれば成功したのではないかと思います。

- 会 長：人数的には少ないかもしれないし、断酒会の方が7割というのものもあるかとは思いますが、全国的にも先駆けて、1回やって終わりというわけではなく、継続して行っているということは素晴らしいと思います。断酒会の方以外の方も見えているということはいい事かと思います。
- 委 員：資料1の4ページの歯の健康のところは、検診のデータになると思いますが、簡単に補足説明させていただくと、節目というのは30、40、50、60、70ですよ。限定された数になりますし、後は、20歳は20歳が対象、あと妊婦さん、この年は健康まつりハッピーわらびをやっていないからそのデータは載っていないということですよね。事業なのでそういう展開も今後載せていただければというのと、歯の健康は今では歯というよりも口腔、口の中全体でみるようなので、その辺の文言というか認識を少しずつ変えていければというのが自分たちのテーマでもありますし、行政もそれを踏まえていただければと思います。あと、健康事業のウォーキングのことなのですが、延べ数にすると、逆に個々のものが見えてこなくなる。この事業の参加者は目的意識がそれぞれ違うと思います。達成の度合い、先ほど数字があがったものは、それを目的にした人とか、それを達成した人と並列してしまうと、逆にトーンが薄くなるというか見えてこないところがあるので、何を個人が目的に参加して、それが達成できたとか、データをならしてしまうと、もっとすごい改善があったのにトーンダウンしてしまうところがあると思うので、そういう実例を挙げていただけるとデータの信ぴょう性というか、次に私もやろうという参加者が増えてくるようなアピールもしやすいのではないかと思います。
- 会 長：貴重なご意見ありがとうございました。歯科のことに関しては私も虫歯があるかないだけではなく、歯周病があるかないかだけではなく、口腔、全身の入り口ということで考えていかなければいけないと思うところです。新しい見識というか、今までは虫歯があるかないか、ハチマルニイマルの動きがあったかと思いますが、それだけではないという補足でした。それともうひとつは、データで示していただくと、個別でこんなに上がったとか、こういう人がいたとかいうものは個人が特定できない形で、文言で出していただくと、たとえばAさんはこんなことがあったという話があれば、モチベーションが上がるのではないかというご意見だったと思います。ありがとうございました。

(2) 平成30年度事業計画について

- 委 員：健康長寿蕨市モデル事業で、スマートフォンで参加してみたのですが、できなかったです。機種がいっぱい書いてありざっと見ましたが、対応機種がなかったのです。私のは高齢者用なのですが、色々なスマートフォンが対象になると大変ありがたいです。
- 事務局：おっしゃる通り、できない機種もありますので、そういう要望もあるという

のを埼玉県に伝えたいと思います。やっていただけると楽しいです。

- 委員：今の健康長寿蕨市モデル事業について、実は私今年度の5月から蕨健康アップサポーターということで、月に2、3回、3時間ほどさせていただいていますが、いらっしゃる方は20分の8000歩というのを軽くクリアしています。歩数計、あるいはスマホのものをつけることによってウォーキングに対しての認識が非常に高くなっているのではないかと思います。できるだけ多くの方に来ていただきたいと思っています。
- 会長：継続してこの事業を続けていただきたいということで、それには住民の方のお力もという話があったかと思っています。

(3) 蕨市自殺対策計画について

- 会長：国のほうから重点パッケージというデータを分析したものが出てきています。蕨市と埼玉県を比べると随分違うというところですね。高齢者と生活困窮者は一緒ですが、蕨市は若い世代が多いですね。分析をしてみれば、60歳以上で、無職で家族と同居される人の自殺が過去5年間で12名、多いと思います、自殺ですからね。こういうことがわかりましたが、対策はどうしたらいいのかというのが事務局の悩ましいところだったかと思っています。これに関して、何かご意見、アドバイス、こんな話があったとかいうのでもあればお願いします。
- 委員：そうですね。本当にこれをみてまさとという方が何人も浮かんでしまいます。もう1点はやはり、いろいろな家族構成があると思いますが、その家族構成員の中に認知症の方が含まれ、もしくは精神的な疾患の方が含まれるという風になってきたときの、他の支える側の家族構成員の方たちが一番つらい思いをしていたり、医療機関になかなかつながらない、特に通院方法が見つからずというような、かつそれで生活困窮ですと、費用のことも考えてしまいというようなこともあったりするのでは、本当に他人事じゃないというか、対策方法を検討したいですし、情報を共有しつつ、協働できるところはしていきたいと思っています。あともう1点、2位の女性20から30歳、無職同居の方の死亡率も高いというところがびっくりしたところですね。これは蕨市の特徴なのですか。
- 事務局：統計上出したものなので、多いと思います。10万対で42.0ということで3位のところのすごい値もありますが、やはり高いと思います。若い人の問題というのが蕨市で多いのかなという印象です。
- 会長：背景にある自殺の危機経路なんていうのも国から出していただいたのですか。それともライフリンクのデータを持ってきたのですか。
- 事務局：ライフリンクです。
- 会長：2位の背景にあるものはDV、離婚とありますね。60歳以上の男性の問題と、若い女性の、子育てしている人の問題になりますでしょうか。
- 委員：余談になりますが、DVで逃げてこられた方に親御さんがいらっしゃるって、その方と蕨市内で同居を始めたって、そうするとそのDVで逃げてきた方に関

しては情報規制されています。親御さんの介護を始めるにあたっては私たちの中では情報共有が必要になります。個人情報取り扱いに関してもすごく悩んだ時期が今年度に入ってからあって、他市、他県から入ってこられた事例だったんですけど、問題がこれからどんどん複雑化していくのかなという印象です。

- 会 長：子育てでは3歳児以降のお母さんへのフォローはなかなか難しいですね。
- 事務局：4歳半健診があります。
- 会 長：話を戻してお孫さんが介護していますという話を聞くのですが、お孫さんで60代の方がいます。60代の方で介護を中心に行っているという方は高齢化と介護とによって問題も複雑化しているというところもあります。先ほど認知症の例もありましたので、何かそういうところからのとっかかりで、認知症の人を抱えている介護者には介護疲れだけでなく、その人たちの自殺のこともアンテナを高くするということなのではないでしょうか。
- 委 員：認知症の方は、これからもう右肩上がりが増えると思います。介護の点でも医療の点でも連携するシステムが必要と感じます。
- 会 長：以前の事例で、介護している方が介護をされる配偶者、親を殺して自分も死に、殺人と自殺という扱いになりました。複雑な要素が絡んでいるということがますます増えてくるかと思います。60歳以上のことをターゲットにするのであれば包括支援センターと協力するのも一つかなと思います。事例をお持ちだと思います。
- 会 長：その他、どうでしょうか。あまり身近に自殺というのはないのですかね。5年間で78人。
- 委 員：60歳以上の無職同居の方の、こういう方たちが同じ悩みを共有できるような場所がありますか。共通するのは孤独であったり、そういうことなのかなっていう単純な印象ですけども、同じ悩みを共有するだけでも、そういうコミュニティがあることがすごく大事なことだと感じます。
- 委 員：サロン活動や、交流会の場、それから茶話会も多々できています。ただ、やはりつながれなくてというか外に一步が踏み出せなくておうちにいる方をどのように外に出てきてもらうかというのは私たちの本当に悩みです。
- 会 長：参加者は男性女性の比率はどうですか。
- 委 員：9対1か8対2くらいの割合で女性が多いです。ですので、逆に男性だけの会というのも最近はずいぶん増えてきていますが、小さなグループから作っています。次に何をしたいということ自体も男性方に考えていただくという取組も包括支援センターで行ったりはしています。
- 委 員：男性はどうしてもコミュニティになかなか入っていかないという傾向が正直なところあると思います。男性は1人でコツコツということがけっこう多いので、そういうスポーツセンターの活用であったりとか、そういうのをけっこうやられていることが印象的でして、それがつながるのかはわかりませんが、そういうことも考えてもいいのかなと思いました。
- 会 長：いかがでしょうか。どのような対応をしたら、これが防げるか、5年間での

自殺の78人を減らすにはどうしたらいいかということで、男性には孤独ではないようなところに足を運んでもらうにはどうしたらいいかというのがあるかと思いますが、それと、若い女性、子育てだったらお母さんが亡くなったからお子さんはどうするのかという話にもなってきます。

○事務局：なかなか難しい問題で、今、こころの相談という事業は実施しております、精神科医の先生が相談を受けるという事業なのですが、出てくる方は自分で何とかしたいという方向性なのでいいのですが、民生委員さんなどからいろいろ相談を受けたりするのですが、困っている人がいるけれどそれを事業に結び付けるということの大変さは日々感じています。先ほど男性の参加だとか愚痴が言える場所づくりだとか、そういうところも含め、この計画を立てるということで、事業の見直しがされ、新規に事業ができるかもしれないですし、みんなで話すということだけでも一歩結びついていくのではないかと思います。ぜひこの機会に考えていきたいと思えます。

委員：自殺対策の市町村版事業の棚卸事例集というのがある、いろんなところでいろんな取組をしていて、それがターゲットが少しずつ違うから違うことをやっているけれども、実は同じ目標に向かって一緒になって協働していく、事業を少し組み替えたりとかターゲットの仕方を変えたりとかということでもうまく活用できる可能性もあるんじゃないかということも狙っていらっしゃると思うので、ぜひその部分を庁内で検討していただきたいなというところでは。健康づくりにしても、自殺対策にしても、具体的なこんな事例があったとかイメージがわくとみんなの中に危機感とかこういう風にやらずにちやという使命感とかそういうのが出てきて、具体的にこの事業はこういう風に変えたらうまくいくのではないかというのが出てくるだろうと思えます。やはり現場にいてやっていらっしゃる地域包括の方とか、DVの相談に乗っている男女平等のところの相談員さんとかという具体のところからのお話を吸い上げていただいて、具体から見えていく総合的な対策の事業の組み替えみたいなのが見えてくるとすごくいいのかなと思ったりはします。それと、今データヘルス計画もやっているじゃないですか。健康づくりも自殺対策も、それからデータヘルスも介護予防も目指すところ同じだと思います。そしてその背景にエビデンスとしてはソーシャルキャピタルという人とのつながりの場をどうやって作っていくか、人とつながっていくようなところの仕組みをどうやっていくのかというのがどこの市に行っても根底から課題で、出てこない人にどうやって出てきてもらうか、どうやってつながってもらうか、1人で悶々といろんなことを抱えている人たちがどうやってサービスや制度につながっていくかっていうところがすごく大きな課題なのだろうという風に思うので、こういうスマートフォンを使ったような、この事業を、逆に参加してもらいながらつながっていくような仕組みを作っていくところなのかなと思います。協力できる場所がありましたら一緒にやりたいという風に思いますのでよろしく願いいたします。

○会長：蕨市はコンパクトシティなので他の市町村から比べるとどこかに出るという

のは行きやすい場所ですよ。そういうところも利用しながら、ちょっと歩けば人に会うとか、人と話せるというのができると良いと思います。

- 委員：私の方は、相談を受けた場合に訪ねて行って伺うとか、問題あっても立ち入れないんですよ。だから相談を受けると包括支援センターの方に相談に行ったりとかになってしまうんですよ。難しいんですよ。本当は入っちゃいけないことになってる、昨日もお仲間と話したんですが、ちょっと認知症みたいになっているのでいってくれないかと町会長から言われて行ったら、長年付き合っているのに、ちょっと気持ちが変わっちゃったのか、あなたにおつきあいしたくないと言われて断られちゃったという風な、長いこと民生委員やっていてそういうこと言われてショックだとかって言ってましたけど、何せ立ち入れないですよ、私たちは。調査に行っても玄関で。
- 委員：包括支援センターの方には本当にお世話になっています。
- 会長：そういうつなぐ問題は難しいですね。また、生活面は大きいと思います。生活が立ちいかないために自殺というのは悲しいことだと思うので、そこらへんはせつかく行政でこういう基本法ができるのであれば、就職なのか、何かどこかでつながるとかやはりお金というよりは役割があるとかっていうことなんだろうと思います。
- 委員：やはり地域のコミュニティ、町会の場合ですと、かなりの部分で入っていただけますので、もしかしたらこういうことは自分も好きなんだとか、自分もやれるとかいう方もいると思うんですね。そういうものを町会を利用するとか、できるだけ参加してもらおうとか。これからあるのは盆踊り大会が一番近いですかね。そういったところに声かけていっていくというのも1つかなという気がします。
- 会長：ありがとうございます。なかなか拒否して家に入れて下さらないという人もいますが、地震のとき避難どうするとか、っていうところからきっかけにご本人たちも殻に閉じこもっている人も地震だとか逃げる時はこうですよっていうところから外に出してもらおうという話なんかはいいんじゃないかと。震災の話なんか地域につながるというところもいいんじゃないかと。
- 委員：夫婦2人の生活で認知症なりを抱えながらの生活を考えるとすごく不安はあります。自殺という重いテーマだけど誰もがそういうのを抱えて生きていますよね。つながりについては、ネットワークステーションでつなげていこうという気持ちは一生懸命あります。蕨は行事が多すぎるように感じる。それをひとつにつなげればいいんですよ。個々にやってしまっている。その辺のところを行政に整理してもらいたいですね。それをつなげていくのは町内でしてもらい、結果が出るようにする。いろんなところで自殺っていうんじゃないなくてももう少し柔らかな雰囲気の中で意見を取り入れられるようなことができれば。
- 会長：重たいテーマですし、ここだけで決めることでもないし、町内全体で自殺は考えることだろうと思ってはいますけれど、いろんな意見を伺いたいということだと思います。よく考えたら、もしかしたら、皆さんが目配り、気配りし

ているから、この人数かもしれないし、78人というのはい多いのか少ないのか
わからないですけども、今までやってきていただいたり、声をかけていた
だいたりしているから、こうかもしれない。それもわからないですけど、た
ぶんそれも大きいと思います。それでもゼロにしたいと思う数字ですよ
ね。
では、以上で審議を終わりにしたいと思います。

○事務局：皆様、いろいろとご意見いただきましてありがとうございます。いろん
なご意見を広く聞いて蕨市としての計画にしていきたいと思
います。

3 閉会